

会 議 録

会 議 名	第2回辰野町立小・中学校あり方検討委員会
開 催 日 時	令和6年4月25日（木曜日） 午後6時30分～午後8時30分
場 所	辰野町民会館 大会議室
出 席 者	出席者 委員17名中15名、教育委員5名、事務局5名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委嘱書交付 4. 自己紹介 5. 委員長挨拶 6. 協議事項 7. その他 8. 閉会
会 議 結 果	<ol style="list-style-type: none"> 6. 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「第1回辰野町立小・中学校あり方検討委員会」について 事務局より説明。「あり方検討委員会」立ち上げの背景と検討事項について確認。委員より出された質問のうち「検討委員会のスケジュール」と「今の学校の現状と今後の見通し」について、資料に基づいて説明。 (2) 辰野町の特色を生かした学校のあり方、地域と連携した教育課程のあり方について ワークショップ（ワールドカフェ方式）を行い、4テーブルで対話を行い、テーブルリーダーがテーブルごとの検討内容等を発表 7. その他 事務局より、本日お持ち帰りいただく資料について確認。
発 言 者	発言の内容
教 育 長	<p>2. 教育長あいさつ</p> <p>令和6年度に入り、団体推薦の委員の中には交代された方もおられますので、新たな委員をお迎えして、再スタートを切る形になりました。</p> <p>前回は、初の委員会ということであり、委員の皆さんも互いに初対面ということで、思っていることも十分に出不せないという状況もあったのではないかなと思います。そこで、今日はこのあり方検討委員会の委員を選んだ理念も踏まえ、これから長丁場になってまいりますので、委員の皆さん同士互いに理解をして知り合いとなって、意見を出しやすい雰囲気を作っていただきながら、子どもたちの学校における学びだとか、学校と地域との関わり、あるいは学校間の連携など、自由に意見を出し合うワークショップというものを取り入れてまいりたいと思っております。今日は、皆さんお一人お一人ここにおられる全委員の皆さんが、かかわり合うことができるようなワークショップとなっております。</p> <p>前回要望として出されましていくつかの資料のことをございますけれども、今日の協議及びこのワークショップに必要と思われる内容のみとさせていただきます。ご要望いただいた資料につきましては次回以降提示させていただくことになっております。なお前回第1回のあり方検討委員会でお出されました、平成29年9月</p>

	<p>26日に教育委員会に提出されましたあり方検討委員会の提言書、それを受けて平成30年の2月21日に辰野町教育委員会がまとめました見解につきましては、今日この会議が終了する段階でそれぞれ委員の皆さんに配布をしたいと思います。それにつきましては次回第3回目に提出資料としてまた使いますので、その間じっくり見ていただけるとありがたいなと思っております。</p> <p>これから長丁場の検討委員会が始まってまいりますけれど、お互いに自由に意見を出し合い、そして教育委員会事務局の方でそれを整理をさせていただいて次の検討委員会に繋げてまいりますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
委 員 長	<p>5. 委員長挨拶</p> <p>本日はあり方検討委員会第2回目ということですが、先ほどご紹介ありましたように、4名の方が新しく委員として加わっていただきました。今年度はこのメンバーで検討事項や課題等にしながら検討していきたいと思っております。</p> <p>第1回目の検討委員会の議事録については委員の皆さんのお手元に届いていると思いますが、教育委員会事務局への質問、要望事項については、この後の説明や今後の話し合いの中で討議して明らかになってくるものもいっぱいあるかと思っておりますので、そこで解決できればと思っております。</p> <p>本日は、「将来を展望した学校の適正規模適正配置及び学校のあり方について、幅広い見地から研究および検討を行う」と、この委員会の設置要項にあるように、委員の皆さんが学校のあり方についてどのように考えておられるか、皆さん方の思いや考えを出し合い、また夢を語り合い、それをお互いに理解し合って今後に生かしながら次回からの討議を深めていければなど、そんなことで、ワークショップを計画いたしました。日頃お考えになっていることや思いをいろんな角度からたくさんお話いただきたいと思っております。よろしくお願ひします。</p>
委 員 長	<p>6. 協議</p> <p>(1)「第1回辰野町立小・中学校あり方検討委員会」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局説明をお願いします。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料に基づき事務局説明。
委 員 長	<p>6. 協議</p> <p>(2)辰野町の特徴を生かした学校のあり方、地域と連携した教育課程のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップのファシリテーター（説明・運営）は委員長。 <p>A～D4テーブル、4名ずつに分かれ、辰野町の特徴を生かした学校のあり方、地域と連携した教育課程のあり方について、2回メンバーをシャッフルし話し合う。模造紙に書くのは他のメンバーの意見</p>
委 員 長	<p>6. 協議</p> <p>(2)各テーブルの検討内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各テーブルリーダーは発表をお願いします。
	<p>Aグループですけれども、学校のあり方の中でまず学校の形態ですが、現在のニーズに合った多様性をもったカリキュラムがこれから必要だから、一貫校として9</p>

<p>A テーブルリーダー</p>	<p>年で習えばいい、そうしたら系統的に学べるのではないかということです。一方では、中1ギャップもなくなるだろうという話です。</p> <p>それから保育園の実務をされている先生からは、人が減ることによって、核家族が増え、子どもとの触れ合いが少なくなって、結局体験から学ぶことができにくくなっているということです。昔はお互いに喧嘩したりして、大家族の中、たくさんの兄弟の中で体験から出てくる知識が今は不足しているのではないかということでした。</p> <p>とりあえず学校を一つにまとめなきゃいけないのは、クラスマッチとか遠足とか、我々の体験した楽しい行事、そういうものをみんなと一緒に共同の目的を持ってやれば行事が楽しいから。いずれにしてもギャップを緩和できる小中一貫校というのは今後必要じゃないかと思います。そして伊那小学校のケースを言うわけじゃないけれども、もう通知表で評価する時代ではないので、公的には難しいかもしれないけれどもなくしていったって、もう少し楽しく学べるようなスタイルがこれらの対象じゃないかという話です。</p> <p>それからもう一つは、辰野町としては時間軸、教育検討会議の時間軸が遅い。諏訪市なんかはもう3校4校ずつ、平成20年、平成の時代から決めてるんですね。そこに肉付けしながらもう粛々と進めていっているんですね。辰野町は川島小にフォーカスしすぎて全体像が見えていなかったという見直しもしてほしいなと思います。実際には1学年10人以上なら存続した方がいいんじゃないかと思います。今度の対象は南小だと思いますが、南小は当分減らないので、存続したらいいんじゃないかという話がありました。</p> <p>それから、これからは個別に自然と触れ合う教育、子どもたちにしてみれば行動範囲が狭く行き違う人も見えないから、外へ出てくるというエネルギー、そういうものもあるんじゃないかなと、そういう話でございます。</p>
<p>B テーブルリーダー</p>	<p>四つ言います。</p> <p>一貫校をつくるということが見通しだとすれば、一貫校のあり方として、ただ統一するのではなくて各学校の魅力や特色を大切にしながら考えていきたいなということです。</p> <p>それから、この地域には幼稚園保育園小学校中学校高校大学まであるので、学校がずっと一貫して学びが継続していくっていう、そういうことも考えることができればいいなという話がありました。</p> <p>それから、集まっているメンバーの立場がいろいろ違うので学校を見る視点がバラバラで、なかなか話し合いの視点が絞られていかない、そういう幅に差を感じるというので、町の方の方針が示されてそれに対してみんながどう感じるのかというふうな意見を出していくと、視点が揃って話し合いが深まるかなっていうような意見もありました。</p> <p>それから、子どもと触れ合える学校評議員がとても楽しいという話があって、地域の人たちにそういうチャンスをと何とかして保障できると、学校って楽しいところなんだな、地域の人たちも一緒に楽しめるような感じがする、そういうご意見もあ</p>

	りました。
C テーブル リーダー	<p>C の方でも一貫校というところがメインの議題かなという形で話を進めておりました。可能であれば、保育園から短大までっていうのがいいかなと思います、難しい面もあると思います。</p> <p>まず、保育園のところでどういったところがいいかっていうことですが、親の目線からすると、選ぶに際して保育園あるいは学校が終わった後見てもらえる環境を作っていただけたところは、選ばれやすいのかなと思います。また、今、学校ごとの学童とかありますけど、そういったところである程度見ていただける、ここに地域の方も協力していただいて地域絡みで補助していく、こういうところであれば選ばれやすいと思います。</p> <p>この資料を見ると、学校の方も人数の方も1クラスになっていくっていう傾向が今あります。子どもも大人数っていうのを経験はさせた方がいいのではないかなという意見がありました。また、もし精神的じゃないですけどなにか行かれないきっかけとかが出てしまったときに、クラスが少なすぎて他に行く場所がないと、学校にも行きづらいということも出てくる可能性がありますので、その辺もフォローできる環境を作っていった方がいいのかなという意見がありました。</p> <p>また、楽しい学校を作っていくっていうのも非常に大事かなとは思いますがここに至る人口の減少ですね、子どもの人数の減少というところから見ると、子どもの数を確保するには人を増やしていかなきゃいけないっていう方にもフォーカスしなければいけないのかなっていうことでした。学校のあり方っていうのもあるんですけど、人の方の確保いうところにも話の方を持っていかないと、ただ学校が楽しいところって言うだけだと厳しいのかなっていう意見の方もおられました。</p>
D テーブル リーダー	<p>D グループですけれどもよろしくお願いたします。皆さんおっしゃっていたことと結構重なりもありましたのでその辺は省きます。</p> <p>最初の辰野町の特色を生かしたというところで、町の特色って何だろうっていう話で、自分としては、辰野町はとて面白いところだと思います。町が小さくもなく大きくもなくちょうどいい大きさなんじゃないかというようなことが印象に残っています。もともとの学校単位と村単位が一緒になっている、そこがこの町の独特な特色なんじゃないか。そういったところでいろんなことを決めたり物事を進めたりすると、地域が許さないというようなことが難しいという意見が出ました。このことが、今後、特色を生かしたというところでポイントになるんじゃないかなと個人的には思っています。</p> <p>あと学校の中身としては子どもたちの人数がある程度いないと世界が小さくなるという話が出ました。資料を提示していただいたり、今後の人数推移を提示をしていただいたりした中では、数字だけを見るとやはり統合ありきなんじゃないか。そういうことであれば、そういった形とか目標を持ってそこへ進むべきなんじゃないか、そういう話し合いをする場にするべきなんじゃないか、という話も出ました。</p>

	<p>個人的にああそうだと思ったことがあるのですがけれども、今後少子化をどう考えていくかという中で、南箕輪村は何とかなっているのに辰野町はどうなんだろうかという話の中で、どうして違うのかというところで、町とか行政が土地に向かっていく考え方、姿勢が違うということがあるのではないかと。南箕輪村は住宅地をきちんと整理をしているけれど、辰野町も農地をもうちょっと整理をした方が人が家を建てて入ってくるんじゃないか、そういうことがやっぱり必要なんじゃないか。少子化を解消するのに絶対役に立つんじゃないかということです。</p> <p>個人的な意見もお話をしてしまいましたけれども、内容的としては、やっぱり子どもたちがもっと生き生きとして元気で賑やかである学校というのを作ってほしいということでした。</p>
委員長	<p>今日はワークショップを通して、大きくくくれば新たな学校作り、学校はどうあったらよいかということ、また、子どもたちの学び、小中学校また小中学校の父母を含めた地域の皆さんとの連携、それらについていろんな思いを出し合い、お互い少しかもしれないが理解ができたのではないかと思います。</p> <p>委員の皆さん、特にテーブルリーダーの方にはちょっと負担をかけたわけですが、成果や今後の方向も少しずつ見えてきたのではないかと私も実際に参加して思いました。</p> <p>本日の皆さんの貴重な思いと考えを事務局でまとめていただいて、3回目以降のあり方検討委員会に生かしていきたいと思います。また具体的な数字や提言内容に沿った資料などを今後用意していただけますので、併せて深めていきたいと思います。</p>
事務局	<p>7. その他 事務局より、本日お持ち帰りいただく資料について確認。</p>
副委員長	<p>8. 閉会 それでは第2回のあり方検討委員会を終わります。お疲れ様でした。</p>